

もしも
だっ たり
なにしろ
だっ たり

2023年度 共生の芸術祭

第3会場 | 福知山市立図書館（市民交流プラザふくちやま 2 階 | 通路）

会場：福知山市立図書館 2 階
会期：2023 年 11 月 22 日（水）-12 月 3 日（日）
時間：平日 | 10:00-20:00（土・日 | 10:00-18:00） 協力：福知山市立図書館

ごあいさつ

「共生の芸術祭」は障害者の社会参加支援と文化芸術活動を推進するため、表現とその背景にある体験や周囲の環境にも着目し開催される展覧会です。10 回目を迎えた今回は技法やモチーフに独自の思いがある絵画やイラスト、憧れから生まれる映像、40 年近く続く名状し難い人間模様などの多彩な 8 人の「かたち」を「接続語」と組み合わせたスタイルでご紹介いたします。

タイトルは「もしも だったり なにしろ だったり」。そこにある「もしも」や「なにしろ」をはじめ「むしろ」「やっぱり」などの言葉は、通常単独では使用されず、前後の文脈を捉えようと手を広げます。その向かう先にあるのは、多様性を謳う社会だったり、日常に潜っている寛容さや貧しさだったり、あなたという人であるかも知れません。

もしも、世界が色と数字だったら
やっぱり、彩りのあるまいにち
むしろパワフル、柔らかなパステル。
なにしろ、メモまる見え！
そして、彼らはどこへ行くのか。
じゃあ、新人の服部広菜です、よろしくお願いします、
それでもなお、廻りつづけるオトコ達のカセット。

これら各作家につけたフレーズから想起される空間と共に、魅力的な作品がご来場の皆さまの感性を捉え、未知の感情や新たな記憶が生まれる場となれば幸いです。

最後になりましたが、本展覧会の開催にあたりご協力を賜りました各作家の皆様、並びにご親族、各施設、ご関係の皆様に謹んでお礼申し上げます。

きょうと障害者文化芸術推進機構

大槻修平 / OTSUKI Shuhei

- 6《きりとった あめ なつ》 2021 | 色鉛筆、紙
- 7《おちば》 2013 | 色鉛筆、紙
- 8《おおきい ちいさいりんご》 2003 | 色鉛筆、紙

下村将大 / SHIMOMURA Masahiro

- 1 タイトル不明
制作年不明
素材：鉛筆、紙
- 2-5 タイトル不明
制作年（作品記載年マイナス1年）
素材：フェルトペン（油性）、色鉛筆（クーピー）、紙

2023 年度 共生の芸術祭

もしも だったり なにしろ だったり

出展者 井上リエ / INOUE Rie 大槻修平 / OTSUKI Shuhei 下村将大 / SHIMOMURA Masahiro 知原諒汰 / CHIHARA Ryota 茶菌大暉 / CHAZONO Daiki 藤本正人 + 加藤卓治 / FUJIMOTO Masato + KATO Takuji 山本春雄 / YAMAMOTO Haruo	主催 きょうと障害者文化芸術推進機構 （事務局：京都府健康福祉部障害者支援課） 協力 社会福祉法人 みずなぎ学園、社会福祉法人 さふらん会、NPO 法人 障害者芸術推進研究機構 天才アート KYOTO、社会福祉法人 みねやま福祉会、社会福祉法人 丹後大宮福祉会、アトリエライブハウス、福知山市立図書館、福知山公立大学、イシワタマリ（順不同） 展覧会企画：art space co-jin 会場構成：dot architects、tamari architects 広報デザイン：SOSACHI お問い合わせ art space co-jin
会場：市民交流プラザふくちやま 3 階 市民交流スペース + ギャラリースペース 住所：〒620-0045 京都府福知山市駅前町 400 会期：2023 年 11 月 22 日（水）-11 月 25 日（土） 時間：10:00-18:00（22 日（水）は 13:00 から / 25 日（日）は 17:00 まで） 料金：無料	art space co-jin（きょうと障害者文化芸術推進機構 事務局） 〒602-0853 京都市上京区河原町通荒神口上ル宮垣町 83 レ・フレール 1 階 Tel & Fax: 050-1110-7655 Mail: info@co-jin.jp WEB: https://co-jin.jp/

第2会場

IR-1,2,3

井上リエ youtube 映像

IR-1 5分32秒
IR-2 5分03秒
IR-3 5分39秒

制作：井上リエ
映像セレクト：art space co-jin

IR-4

壁面展示作品

(※「全国アナウンサー名鑑」と記載のものを除く)

タイトル不明

制作年不明 | 油性フェルトペン、紙など

壁面展示作品

(※「全国アナウンサー名鑑」と記載のもの)

《全国アナウンサー名鑑》

制作年不明 | ペン、紙

じゃあ、新人の服部広菜です、
よろしくお願いします、

井上リエ

INOUE Rie

2004年生まれ、京都府在住

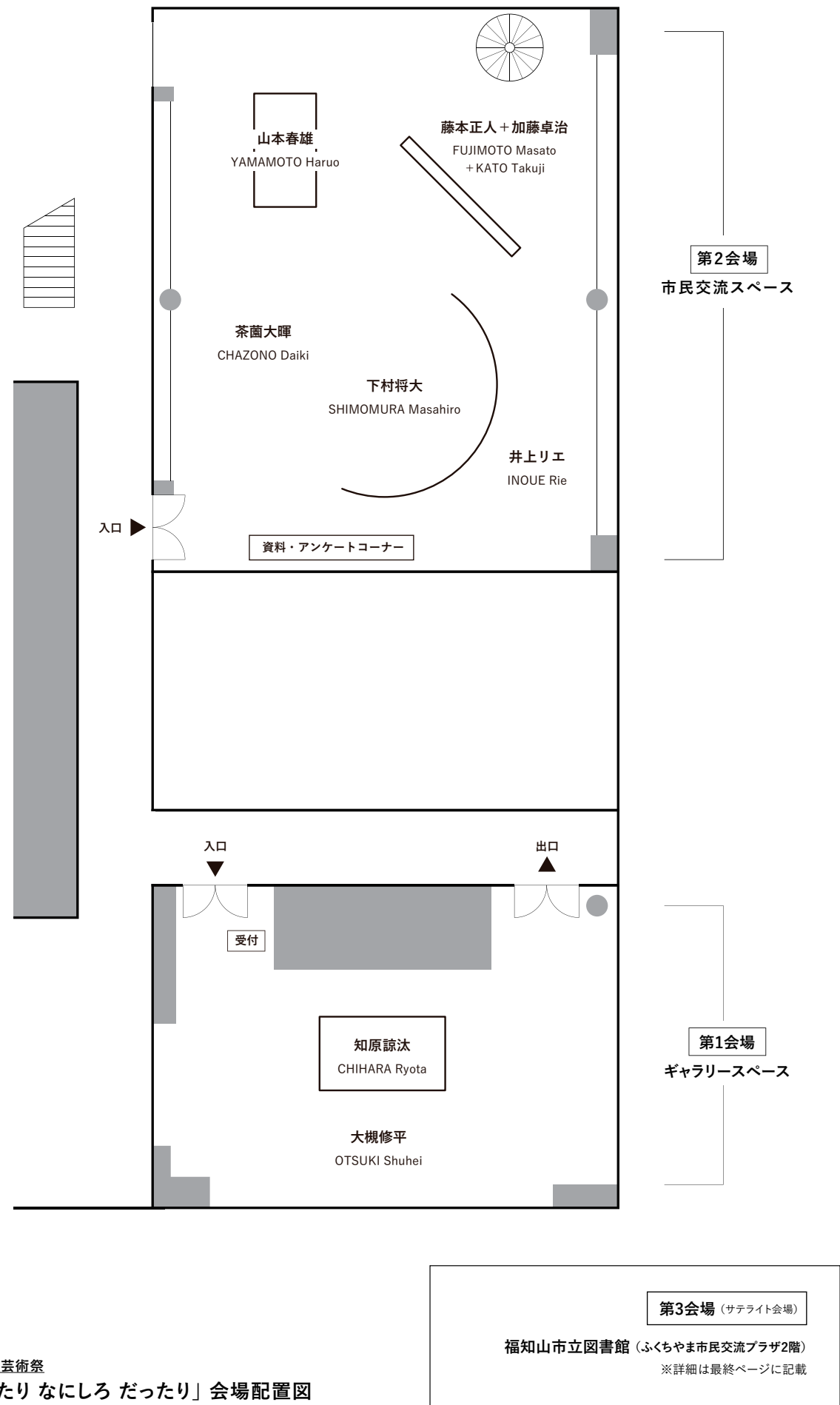
アナウンサーや動画配信の出演者、歌手・アイドルなど、井上が憧れる対象は数多い。「服部広菜」「比敷柚華」などの名義で、それらの対象にならったパフォーマンスを行い、スマートフォンや任天堂3DS、家のテレビなどを駆使して、人知れず配信用の動画を作成する。表現されるジャンルは、ダンスや激辛食レボもあれば、合わせ鏡のように撮影した動画のコラージュなどがある。ときに奇抜なメイクやヘアスタイル、また言動で周囲を困惑させることもあるが、そんな心配をよそに、複数の登録チャンネルでこれまでに3,000本にもおよぶ動画をYouTubeなどで公開してきた。

また、動画だけではなく「全国アナウンサー名鑑」と題した自作の冊子にも、井上の憧れが見受けられる。生年月日や出身地、出演番組まで書き込まれているが、各々のキャラクターとその業界に自身を投影しているかようだ。

作画はネット通販で購入したコピー用紙やペンなどの画材を用いて日常的に描かれる。部屋のクローゼットに積み重ねられ、壁一面に貼られることもある。膨大に溜まると自身で廃棄するのだが、いくつかの大きなゴミ袋を持って部屋を行き来する姿に、「サンタクロースみたい」と母は笑った。

憧れることは生きていくうえで大切な役割を果たしていることは広く知られている。アイデンティティは無数の再生動画や作画によって形成され、その世界に溶け込んでいく。そして旺盛な好奇心が次々と新たな対象を捉え、自らを変容し続ける。別れのあいさつでもある「じゃあ」は、また、未来をつなぐ言葉でもある。

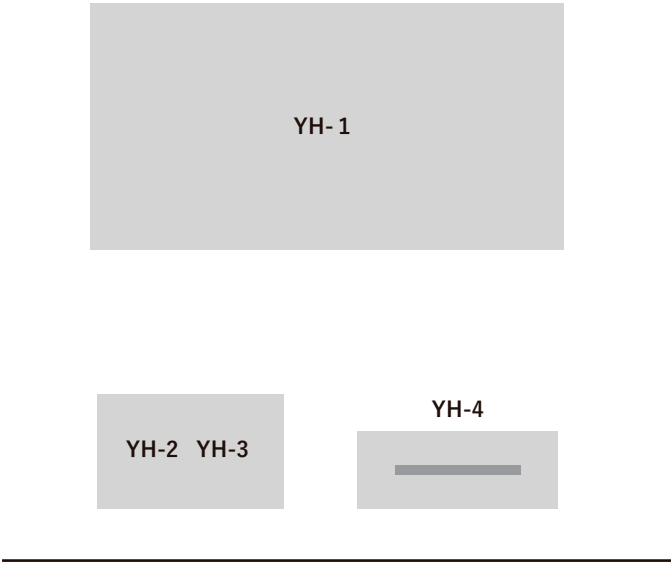
井上リエは、いつも新人なのだ。



2023年度 共生の芸術祭

「もしも だったり なにしろ だったり」会場配置図

第 2 会場



山本春雄

YAMAMOTO Haruo

1953 年生まれ、京都府在住

所属：社会福祉法人丹後大宮福祉会 あゆみが丘学園

山本春雄は、ハルオ、とよくカタカナでサインをする。シャツやズボンの刺繍にもそうしているので、自然とハルオさんと呼んでしまう。そんなどこか親しみやすさのあるハルオさんは広告やファッション雑誌、動物図鑑などを、色鉛筆やペンを用いて忠実に描き写す。自室にこもり朝から夜まで一心に制作すると聞くその様子は、いつ描き始めてどの色を使い、どれくらいの期間で完成させたのか、作品画面から伺うことができる。なにしろ、メモがまる見えなのだから。

10 月 8 日土あさはれ 105811101143
10 月 8 日土ひるはれ 1814628252332
...
10 月 8 日土ばん 64479737738

このように制作にあてた日・時刻、使用した色などが同一画面上に記録しており、一見すると画像の補足のようでもあるが、むしろこちらが主題のようにも見えてくる。メモが残されるようになった理由や経緯などは定かではないが、ハルオさんが持つとても大切な創作空間と、そこから発する鉛筆の振動までが、レコード盤さながらにそこに刻まれているかのようだ。かつては額装の際に、メモの部分をフレームサイズに合わせてやむを得ず切り取られていた時期もあったが、現在では文字も含め描かれた箇所すべてが、かけがえのない創作物であると認められて残されている。雑誌などの他には楽譜や歌謡曲の歌詞カード、年賀状、ラジカセ、そして入れ歯など、長年にわたり常に身近に置かれたものが細密に質高く写し描かれている。また絵画以外にも、自室に積まれた便箋には、時刻や天気、朝ドラのタイトル、食事や入浴、列車の情報などの事象が、ほぼ 1 ページに一日分の構成で整然と幾何学模様のように記録されている。描いたものが部屋から持ち出されることを、ハルオさんはほとんど許してくれない。それは私たちが認めた「かけがえのないもの」とは遥かに異なる何かが存在するからなのだろう。

YH-1

タイトル不明

制作年不明 | 色鉛筆、鉛筆、紙

(※本人の意向により、複写した作品も展示しています。)

YH-2

山本春雄 資料写真

施設近隣の地蔵に付けられた前掛け

撮影：art space co-jin
撮影日時：2023 年 9 月 29 日

YH-3

タイトル不明

制作年不明 | 糸、布

YH-4

山本春雄 資料映像

5 分 42 秒

出演：山本春雄

取材日時：2023 年 9 月 29 日

協力：社会福祉法人 丹後大宮福祉会 あゆみが丘学園
撮影・編集：寺岡海 (art space co-jin)
制作：きょうと障害者文化芸術推進機構

なにしろ、メモまる見え！

知原諒汰

CHIHARA Ryota

1999 年生まれ、京都府在住

所属：天才アート KYOTO

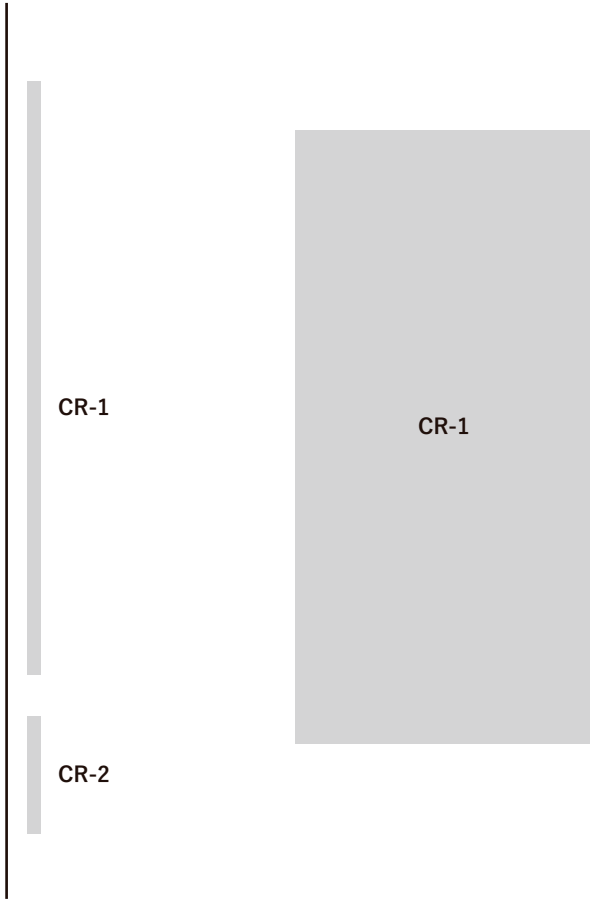
もしも、世界が色と数字で構成されていたら。知原の色と数字に彩られた作品から、そんな想像が頭をよぎる。画面に散りばめられた数字は、色鉛筆の色番号やラジオの周波数、9 の倍数、バスの路線番号など、知原が好きなものに由来していることが多い。

知原は幼い頃から色と数字に魅了されていた。スーパーでは入浴剤や芳香剤のコーナーを熱心に眺め、誕生日には 100 色の色鉛筆をプレゼントにねだった。ラジオは音楽を聴くことよりチューニングを試すことが好きで、海外の放送や砂嵐を聴いている。色と数字の組み合わせでは、色鉛筆に書かれた色番号を暗記していたり、分割した画面に色を指定する番号が書かれたパズル塗り絵が好きで、それを真似して描かれた作品もある。

一方で、定期的に特定の数字や図形を嫌って書かなくなる。理由は本人以外には分からない。ただ絵を描くこと自体が嫌になるということではなく、ペンが持てる様になった 2、3 歳頃からほぼ毎日描き続けている。

知原の作品は使う画材によって雰囲気が大きく変わる。印刷物の裏面を使うときは色鉛筆で数字や図形を繰り返すことが多く、印刷された数字を特定の色で塗りつぶしていたり、何か目的を感じるが作品の数が多すぎて家族も尋ねることを諦めたそうだ。画用紙の場合は水彩絵具を使い抽象的な色彩構成になる。

自宅での制作の傍ら、支援学校卒業を機に 2017 年から天才アート KYOTO に所属している。週に 1 度通うアトリエでは課題などではなく、制作は自主性に任せられている。知原はアトリエに着くと自分の制作用の机に座り、時に電卓を弾きながら色と数字で構成された世界を次々に生み出している。



第 1 会場

CR-1

展示作品すべて

タイトル不明

制作年不明
色鉛筆、鉛筆、水彩絵具、水性フェルトペン、紙など

CR-2

知原諒汰 資料映像

2 分 44 秒

出演：知原諒汰

取材日時：2023 年 9 月 9 日

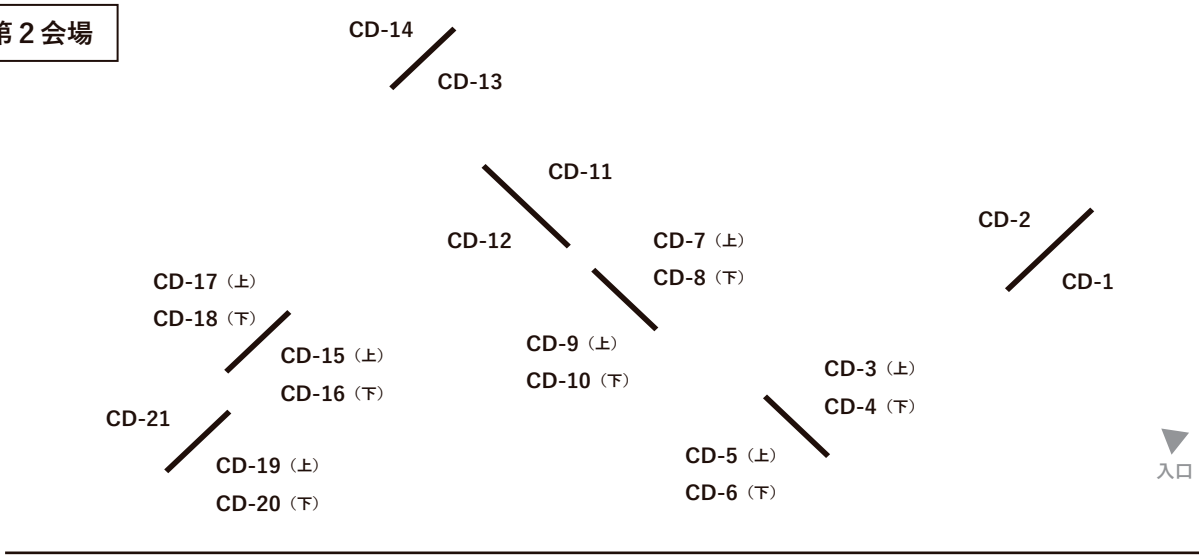
協力：天才アート KYOTO

撮影・編集：art space co-jin
制作：きょうと障害者文化芸術推進機構

もしも、世界が色と数字だったら

第2会場

第2会場



- CD-1 《 マントの女 》2017
CD-2 《 コートの男 》2018
CD-3 《 くろとグレーのもようのコートの女 》制作年不明
CD-4 《 オレンジのふくの女 》制作年不明
CD-5 《 スーツの女 》2021
CD-6 《 ピンクのふくの男 グレーのふくの女 》制作年不明
CD-7 《 はだいろのふくの女 》2021
CD-8 《 青いふくの女とシャツの男 》2021
CD-9 《 みどりのもようのふくの女 》2021
CD-10 《 もようかたジャケットの男 》2021
CD-11 《 しまのふくの男 》2018

- CD-12 《 黒い服の女 》2018
CD-13 《 黒いコートの女性 》2017
CD-14 《 青いコートの男 》2021
CD-15 《 はなのふくの女 》制作年不明
CD-16 《 くろのふくの女 》制作年不明
CD-17 《 くろいふくの男 》制作年不明
CD-18 《 ワークジャケットの男 》制作年不明
CD-19 《 きいろいＴシャツの女 》2021
CD-20 《 コートの女 》制作年不明
CD-21 《 黒い服の男性 》2017

※素材は全て「パステル、鉛筆、紙」

茶藪大暉

CHAZONO Daiki

1994 年生まれ、大阪府在住

所属：アトリエライブハウス

茶藪の代表作はファッション雑誌のランウェイモデルたちを描いたパステル画だ。その絵は単なる写真の再現ではない。生地 텍스チャーやランウェイの背後に広がる世界は茶藪の想像力で補われている。

茶藪は 5 歳頃からテレビで観た仏像をきっかけに主に仏像・歌舞伎と文楽の登場人物を描いていた。中学生になると新聞の折込チラシをきっかけにファッションに関心を抱き始め、ファッション誌を購入するようになった。

初めの頃はバッグや小物を模写していたが、次第にモデルをメインに描くようになり現在の作風が確立した。2014 年より東大阪市の美術教室ライブハウスにて本格的な制作を始める。現在は美術教室に週 1 回通うのに加えて、同会社が運営するアトリエライブハウスへ週 2 回通う。ファッションモデルを描くのは変わらないが、美術教室では指導を元に新しい描き方を模索する一方、アトリエではのびのびと自由に描いている。

柔らかな素材であるパステルだが、光沢のない濃厚な色彩は力強く、ゴージャスなモチーフにもマッチしている。大胆なランウェイモデルたちは、茶藪のお気に入りの雑誌「gap」から引用されている。特定のブランドやモデルを描くのではなく、ページをめくりながらその日気になったイメージを描く。制作時間は四つ切りの画用紙で 1 ヶ月、八つ切りで 2 週間ほどかけて完成する。

茶藪はアートフェアなどで作品の売り上げを得ると、お気に入りのブランドでプレタポルテ（高級既製品）を買い求める。絵に描くだけではなく実際に洋服を手にすることが制作のモチベーションになっているのかもしれない。

むしろパワフル、
柔らかなパステル。

下村将大

SHIMOMURA Masahiro

1990 年生まれ、京都府在住

所属：社会福祉法人みずなぎ学園 みずなぎ鹿原学園

下村将大は京都府舞鶴市に位置する、みずなぎ鹿原学園にて制作活動を行なっている。毎日休まず同学園に通い、2 時間半ほどの時間で 2 枚の作品を仕上げる。年齢こそ若いがすでに 200 点を超える作品を手がける多作な作家である。

油性ペンとクーピーを用いて強い色彩によって描かれた作品は、ほとんどの工程に定規を駆使した制作を行うため直線的な線が多く、それが画面により一層力強さを与えている。また、画面の隅にはサインと西暦が描かれているが、その作品を制作した一年先の数が書き込まれている。

モチーフとなるのは、地平線に立つ人々が夕日によって照らされている夕暮れシーンである。彼らは（おそらく）夕日を見ている（あるいは背にしている）。場所は、家が立ち並ぶ街や自然豊かな山や大地もあれば、下村の住む舞鶴の海、または海上自衛隊の戦艦を思わせる船も登場することもある。そこに立つ人々は時には犬や猫などの動物と、または手を繋いで、あるいは何かを手にして、それぞれの思い思いの時間を過ごしているように見える。

夕日によって照らされた人々の逆光のシルエットは、私たちに自由な想像の余地を与えてくれる。同じハットを被っている彼らはいったい誰で、どんな日常を過ごし、そしてどんな気持ちでそこに佇んでいるのか。そして、彼らはどこへ行くのか。いや、そう考えることは無粋かもしれない。彼らがどこからきて、どこへ行こうとも、彼らは今、夕暮れの一瞬の中にいる。下村の絵を見る時、私たちはいつのまにか夕日を見るときのように、そこに私たち自身を投影してしまっていることに気づくだろう。

SM-1

[展示作品すべて](#)

タイトル不明

制作年（作品記載年 マイナス 1 年）

素材：フェルトペン（油性）、色鉛筆（クーピー）、紙

SM-2

[下村将大 資料映像](#)

7 分 14 秒

出演：下村将大

協力：社会福祉法人みずなぎ学園

制作：きょうと障害者文化芸術推進機構

